

中島教育長記者会見録

日時/令和6年10月9日（水）

15：00～15：30

場所/別館庁舎7階教育委員会室

【冒頭説明】

- 1 道立高等学校入学者選抜における出願手続の一部電子化について
- 2 北海道地学協働アワード2024について
- 3 北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクトについて
- 4 道立学校クラウドファンディング事業のプレスイベントについて
- 5 第20回農業高校食彩フェアについて

【記者からの質問】

- 1 令和7年度（2025年度）北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査について
（北海道新聞）

【教育長からの話題】

はじめに、先週、北海道議会第3回定例会が終了しました。今回の議会におきましては、道立近代美術館のリニューアルや医療的ケアが必要なお子様への支援など特別支援教育に関すること、いじめ・不登校対策などにつきまして、たくさんの議論がありました。

この度の議会議論を踏まえながら、引き続き、本道における教育の一層の推進に取り組んでまいります。

私の方から今日の会見にあたりまして5つ、情報提供させていただきたいと思います。
(資料1)

1点目は、「道立高等学校入学者選抜における出願手続の一部電子化」についてです。

来年春に実施いたします令和7年度道立高等学校入学者選抜におきまして、入学願書記入等のプロセスを電子化することにより、願書作成に係る受検者の負担軽減を図るとともに、中学校及び高校における事務処理の効率化を図ることを目的として、先般、道立高等学校入学者選抜に係る実施要項を決定したところです。電子化にあたり、道教委では、8月から9月にかけて、受検予定者や保護者、中学校、高校の教職員を対象に出願手続のプロセスを体験するシミュレーションを実施しました。

シミュレーション実施後のアンケートでは、受検予定者や保護者からは「願書の作成は簡単で、書き損じがなく、修正しやすい」、中学校からは「画面上での選択・入力方式なので、書き忘れが減り、点検しやすい」、高校からは「出願者情報のデータをダウンロードできるので業務の軽減となる」などの御意見があった一方で、受検予定者や保護者からは「選択の仕方がわかりにくい項目があった」、中学校や高校からは「点検しやすくなるよう、さらに工夫してほしい」といった改善に向けた意見がありました。

今後はこうした意見を参考にしながら、受検者が手続き上の負担や不安を感じることがないように、11月には出願手続のマニュアルを公表し、12月6日から、出願者情報のオンライン入力の受付を開始する予定です。

(資料2)

2点目は、「北海道地学協働アワード2024」についてです。

道内の公立高等学校、公立特別支援学校の高等部などを対象として実施します。

このアワードは、地域課題を踏まえた学校教育目標やスクールミッション達成のため、生徒が多様な学習活動に取り組めるよう、地域との連携・協働体制を構築している学校の功績を称えるとともに、全道における地学協働のより一層の推進と活性化を図ることを目的に実施します。

学校の取組を紹介するスライドや発表動画などをもとに、2月中に審査を行い、グランプリ1校、準グランプリ1校、特別賞3校を選出いたします。多くの学校からの応募を期待しています。

なお、全ての発表動画につきましては、12月中旬に道教委のYouTubeチャンネルで公開し、学校や地域の取組を広く知っていただくきっかけとさせていただければと思います。

ます。

(資料3)

3点目は、「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」についてです。

この事業は、国から採択を受けました「マイスター・ハイスクール普及促進事業」を活用し、静内農業高校を拠点校として、これまでに構築してまいりました職業人材育成システムを他の専門高校に普及・横展開することを目的としています。

今年度は、専門高校や企業を対象とした調査に加えまして、半導体や洋上風力発電に関する教員向けの研修や、中学校教員向けの職業学科理解促進セミナーを開催するほか、専門高校の教員や産業界関係者による意見交換等の機会を設定いたします。

また、本庁内に「産学連携コーディネーター」を配置して、先端技術を取り扱う技術者を紹介した「お仕事ガイドブック」や出前授業等が可能な職業人をデータベース化したリストを作成するなど、専門高校の生徒が先進的な取組を学べる持続可能な連携体制の構築に取り組んでまいります。

来年度は、拠点校を農業、工業、商業、水産それぞれの専門高校から各1校選定し、職業人材育成システムの普及拡大を図っていく予定であり、専門高校が、それぞれの学科の特性に応じて、産業界とより緊密につながることを期待しています。

(資料4)

4点目は「道立学校クラウドファンディング事業」についてです。

この事業は、昨年度から新たに実施している事業で、学校・地域の課題解決や、特色ある教育活動の充実を図ることを目的として、ふるさと納税制度を活用し、クラウドファンディングを実施するものです。

今年は、札幌琴似工業高校、小樽潮陵高校、中札内高等養護学校の3校それぞれが、プロジェクトの実施に向けて30万円を目標額として寄附を募っています。

明後日になりますが、金曜日 16:30 から本庁舎2階、官民交流サロン「CONNECT」において、それぞれのプロジェクトについて報道の皆さま方向けにプレゼンテーションを実施しますので、御参加いただき、この事業の周知について御協力をいただければと思います。

ちなみに私も参加させていただきたいと考えています。

(資料5)

最後に、5つ目ですが、今週土曜日、10月12日に開催の「第20回農業高校食彩フェア」についてです。

農業高校食彩フェアは、将来の「食」と「観光」産業のスペシャリストの育成を図ることなどを目的として開催され、実習生産物等の展示・即売、食品加工の実演と体験などが行われます。

会場はイトーヨーカドー琴似店及びアリオ札幌店でございまして、それぞれに15校が参加します。

実施時間は各店舗の営業時間によりますが、商品が無くなり次第終了させていただく

予定です。

今年度は20回という節目に当たります。「持続可能な農業生産」を活動目標に実施するもので、実習で生産した米や野菜等の農産物、乳製品、豚肉などの加工品販売のほか、ジャム作りや木工の体験会などが実施されます。

報道の皆さま方におかれましては、事前の周知や当日の取材についても御協力をお願い申し上げます。

私も当日午前中の早い時間帯になりますが、会場を訪れて生徒の皆様を激励したいと考えております。

私からは以上です。

【記者からの質問】

(北海道新聞)

教員採用についてお尋ねします。9月27日に2025年度の公立学校教員採用候補者選考検査の結果が発表され、札幌市教育委員会分を含めた受検者は、例年より500人少ない3,753人であり、倍率が2.3倍という過去最低の結果になりました。

この受検者数と倍率を受けて、どのように受け止めているのか、また、今後、受検者の確保に向けて、こういったことをやっていきたいのかお聞かせください。

(教育長)

先般、発表させていただいた来年度に向けた教員採用の関係ですが、日々、我々も教員志願者の確保に向けていろいろな取組をしてきているところです。

今回の選考検査の結果につきましては、全国的に検査日程がだんだん早くなっている中で、特に道外の会場における受検者がかなり少なくなり、それも影響して受検倍率が過去最低となっています。この点につきましては、厳しく受け止めております。

一方で、道内の会場における出願につきましては、昨年度並みとなっており、そういう部分では若干、安心できる場所があります。

また、今年度から新たに民間企業経験者を対象とした選考を実施し、免許を持たない方11名も含めて、45名が登録となりました。こうした取組も1つ成果として表れてきていると考えております。

国では、教員の処遇改善が議論されていますし、これからの定数改善も前向きに進めていただけると期待しています。そうした中で道教委として、他の都府県における効果的な取組なども参考にしながら、新たな対策について、更に検討を進めてまいりたいと考えておりますし、引き続き、働き方改革を進め、教職員の仕事の魅力化、教員の確保に向けて、更に力を尽くしてまいりたいと思います。

この文章については、読みやすいよう、重複した言葉づかい、明らかな言い直しなどを整理して作成しています。

(文責 教育政策課)